



歯科医・彌勒寺寛之の

視界良好!

はじめに ～この冊子を書いた理由～

いつも当コラムをお読みいただき、ありがとうございます。

今から私があなたにお伝えする情報はすべて事実です。

わたしが、なぜ今回この文章を書いたのか？それには、わけがあります。

あなたは、

「ずっと健康で快適な暮らしをしたい」

そして、あなたの大切な人にも、

「健康で幸せに暮らして欲しい」

と願っているのではないのでしょうか？

だからこそ、

「歯科で使う材料の違いについて、正しい情報を提供しなければならない」

と私は思います。

これが、歯科医師である私の義務だと思います。

第1章 かぶせ物と詰め物の真実

かぶせ物や詰め物をするための下準備が終わると土台を作って歯を補強します。

その次に形を整えて型をとれば、かぶせ物や詰め物（これらを専門用語では「補綴物（ほてつぶつ）」と言います）が出来てきます。

そこで、情報提供として最近では補綴メニューを作成している歯科医院が増えてきました。

ではなぜ今まで補綴メニューが無かったのでしょうか？

私は今まで、保険のかぶせ物や詰め物でもそれなりに良い物ができると考えていました。

しかし、現場に出て経験を積み勉強をしていく中でわかってきたことがあります。

第16回

歯医者が自分の家族には保険の

かぶせ物を入れない本当の理由！①

「保険のかぶせ物や詰め物は、決して体に安全なものではない」ということです。

第2章 患者様から学んだこと

それでは、実際にあったことをお伝えしたいと思います。

私が歯科医師になり立ての頃、Aさんという患者さんの歯石を取っていました。

かなり硬い歯石らしき物があり、その歯石を取ったところ、それはインレーという金属製の詰め物でした。

ビックリして慌てて接着しようとしたのですが、もっと驚いたのは、その詰め物がかなり錆びていたことでした。

「Aさん、この詰め物の内側、錆びてますね。いつ入れたのでしょうか？」

「う～ん、10年くらい前だと思うけど。本当ね、すごく錆びているわね。外からはわからなかったけど、こんなに中は錆びているのね。先生！ これもう入れるのは止めてください。どう見ても体に悪そうだから」

別にはずれかかっていたわけでもないし、入れた状態が悪いわけでもない。

すき間が開いていたわけでもない。

やっぱり口の中はいつも濡れているから、

「銀歯（健康保険の材料）では錆びるんだな」ということがわかってきました。

こういうことはこの時だけではなく、今でも「詰め物が取れたんです」と言って持ってきてくださった方のほとんどの詰め物の裏側は真っ黒になっています。（つづく）



～著者プロフィール～

みろ歯科院長（2012年10月1日新規開院） 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

